

聖マリア研究センター

St.Mary's Research Center

No. 16-066-2024作成

新築
病院/その他

発注者	社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院	カテゴリー				
設計・監理	戸田建設株式会社九州設計室一級建築士事務所 TODA CORPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	戸田建設株式会社九州支店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

居住性能に配慮した研究施設

福岡県久留米市の民間病院におけるがん研究センターである。

地域密着型医療や国際協力事業などの強みを活かしつつ、「さらなる臨床の質の向上」、「臨床の問題を研究で解決する文化の醸成」、それらを実践する人材の育成」の実現を目指したプロジェクトである。3階から5階を研究エリアとし、2階には医師の働き方改革の推進を試みる医局、1階には研究成果や国際的な会議などを行う記念講堂を配する。内向的な用途と外向的な用途が複合する施設であるが、従来の研究施設としての閉じられた環境ではなく、明るくオープンな研究施設として、地域とつながり、社会に発信できる施設を目指した。



東側外観



敷地内聖堂



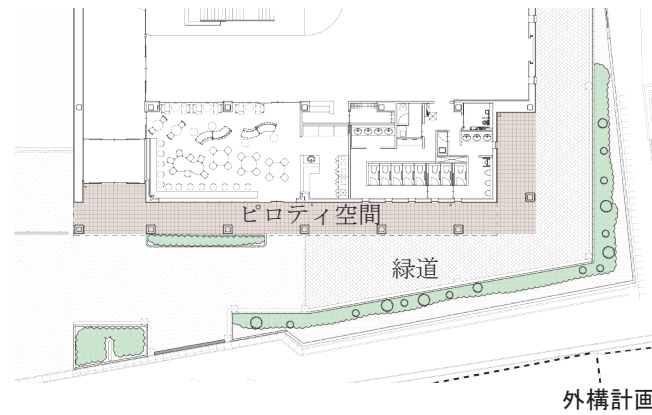
既存建築群

まちなみへの調和を意識した外装計画

既存病院と接続する3階部分にマスボリュームを設けることで、将来的に形としてつながるファサードデザインとした。外装デザインは既存の病院群の白基調をベースとしながらも、敷地内にある聖堂や現存する擁壁のレンガ壁をモチーフにしたタイル張りを採用することで、歴史性を継承しながらも、新たな街並みの形成を行った。

緑道と中間領域

建物の前面道路をメインストリートと定め、ピロティの形成と、緑道の整備を行った。植栽は年間を通して花が咲いている状態を維持できる種を選定し、地域のアメニティに配慮した。

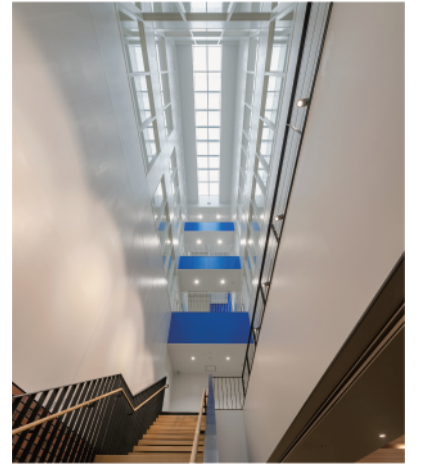


外構計画

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価	
所在地	福岡県久留米市	Aランク	
竣工年	2024年	BEE=1.7	
敷地面積	77,378㎡	2016年度版 自己評価	
延床面積	4,712㎡		
構造	S造		
階数	地上5階		

エコシャフト・ライトシェルフの採用

建物中央には、吹抜階段を設置した。各階の行き来を促し、トップライトからの採光が各フロアに降り注ぐことで活発なコミュニケーションを誘発するように計画した。吹抜の周囲は周遊廊下だけでなく、中央実験室など居室も面する計画とし、研究の見える化と法的な制限を緩和できるゾーニングとした。採光を確保することで照明の省エネルギー化を図り、上部に排気口を設けることで、重力換気を行い自然エネルギーを効率的に活用している。



中央吹抜階段

天然木の採用

講堂の内装には天然木ルーバーを採用し、木に包まれる空間とした。ルーバーはBIM検証とモックアップを行い、デザイン性と音環境に配慮した形状とピッチとした。研究施設としての設備や機器が多いため、消音対策を行い室内騒音をNC-30未満となるように計画した。CO₂削減や再利用可能な資源として、吹抜階段の最下段にも天然木を採用し環境に配慮した。



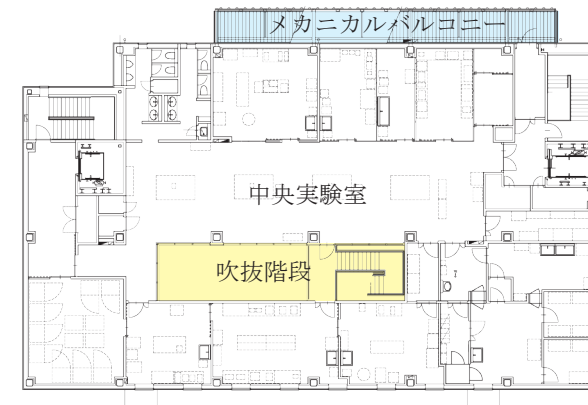
講堂



ホワイエ

メカニカルバルコニーの採用

将来の研究エリア拡大や用途変更への可変性を考慮し、設備機器の増設等に配慮した屋外バルコニーを4～5階部分に計画した。



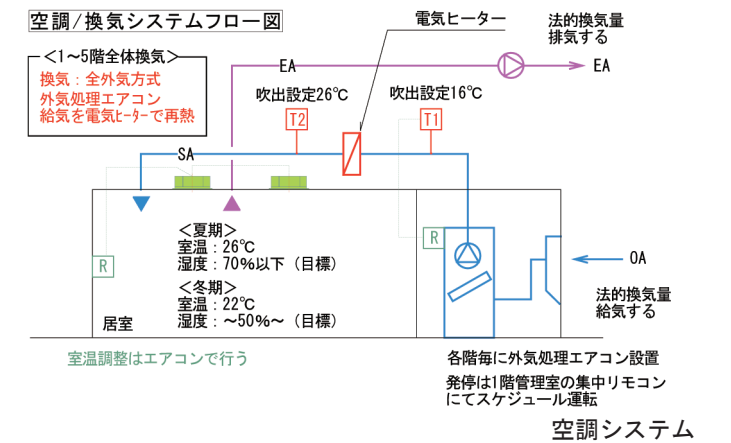
5階平面図

設計担当者

統括：鈴木雄／建築：大江優司／構造：名智竜哉、設備／田口文久、金子寛

多様な用途に対応した空調計画

夏型結露によるカビ対策として、カビが増殖する環境条件である湿度70%を下回る室内環境を実現するため、設備用パッケージに電気ヒーターを組み合わせた除湿制御を全館に採用した。



空調システム

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 3. 対応性・更新性 (メカニカルバルコニー)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (歴史性の継承)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (空間提供、中間領域の形成)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (エコシャフト、ライトシェルフ)